ラツーダ®錠を服用されている患者さんとご家族の方へ

＜双極性障害におけるうつ症状編＞

はじめに

ラツーダは、双極性障害におけるうつ症状を改善させるお薬です。

他のお薬と同じように、ラツーダの効果を十分に得るためには、医師や薬剤師から十分な説明を受けて正しく服用することが大切です。また、安全に服用していただくために、注意していただきたい点がいくつかあります。

この冊子に、ラツーダを服用している患者さんとご家族の方からよく寄せられる質問をまとめました。患者さんの治療の手助けになれば幸いです。

もくじ

ラツーダはどんなお薬ですか? …… 3

ラツーダの飲み方は? …… 4

飲みまちがえた! どうしよう? …… 5

ラツーダ服用中にしてはいけないことは? …… 6

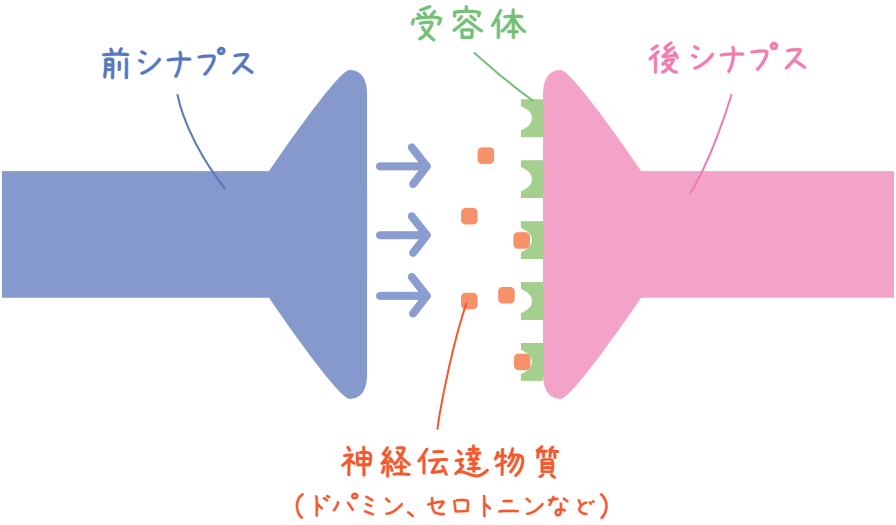
ラツーダ服用中に注意することは? …… 7

ラツーダにはどんな副作用がありますか? …… 11

症状がよくなったら、
ラツーダを飲まなくてもよいですか? …… 13

ラツーダはどんなお薬ですか?

脳の中の神経伝達物質(ドパミン、セロトニンなど)の受容体に作用してバランスを整えることで、双極性障害のうつ症状を改善するお薬です。



ラツーダの飲み方は?

● ラツーダの飲み方

ラツーダは、食事のあとに飲んでください。お腹が空いている状態で飲むと、効き目が弱くなることがあります。ラツーダを飲むときには、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

● ラツーダの服用量

服用する量は、患者さんと医師が相談しながら、症状にあわせて決定します。
ラツーダには、20mg錠、40mg錠、60mg錠があり、服用する量にあわせて、いずれかを飲みます。

20mg錠

40mg錠

60mg錠

ラツーダは毎日飲み続けることが大切です

自分の判断で飲む量を変えたり、飲むのをやめたりしないでください。
また、お薬を飲んでいて気になる症状などがありましたら、医師や薬剤師に相談してください。

飲みまちがえた！ どうしよう？

● ラツーダを飲み忘れたときには？

ラツーダを飲み忘れたことに気づいた時点で、食事または軽食をとってからすぐに1回分を服用してください。ただし、次に飲む時間が近い場合には服用せず、次の服薬時間に1回分を服用してください。
絶対に、2回分を1度に服用しないでください。

● 間違えて多く飲んでしまったときには？

医師または薬剤師に相談してください。
また、多く飲んでしまったときに、「動きが遅い、手足のふるえやこわばり（錐体外路症状）」、「意識の消失、刺激に全く反応しない（昏睡）」、「呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる（呼吸抑制）」、「めまい、動悸、脈が遅くなる（不整脈）」、「脱力感、めまい、ふらつき（低血圧）」等があらわれることがあります。
いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、服用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

ラツーダ服用中に
してはいけないことは?

● 自動車の運転などは行わないでください

ラツーダを飲むと、眠くなったり、注意力が低下したりすることがあります。危ないので、自動車の運転など、危険を伴う機械の操作は行わないでください。

● 飲酒は控えてください

アルコールはラツーダの作用を強めることがあります。

● グレープフルーツを含む食品を摂取しないでください

グレープフルーツジュース等のグレープフルーツを含む飲食物を摂取すると、ラツーダの作用が強くあらわれることがあります。

ラツーダ服用中に注意することは？

● 興奮、不眠、不安などの症状が悪化することがあります

ラツーダを飲み始めたあとに、興奮が強くなったり、ちょっとしたことで怒りっぽくなったりするなど、症状が悪化することがあります。
このような症状があらわれたら、医師または薬剤師に相談してください。

● 血糖値が上昇することがあります

ラツーダを飲むと、血糖値が上昇することがあります。
血糖値が高めと指摘されたことがある人や、糖尿病にかかったことがある人は、医師に伝えてください。
高血糖の症状があらわれることがあることを、患者さんだけでなく、ご家族の方も十分に理解できるまで、説明を受けてください。
ラツーダを飲んでいる間は、以前よりも**のどが渇く、水などを多く飲む、尿が多く出る、尿の回数が増える、だるい**などの高血糖の症状に注意してください。このような症状があらわれたら、ラツーダを飲むのをやめて、すぐに受診してください。

● 低血圧があらわれることがあります

ラツーダを飲み始めたとき、いったん飲むのをやめて再度飲み始めたとき、ラツーダの量が増えたときに低血圧の症状（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、意識の消失など）があらわれることがあります。これらの症状があらわれたら、医師または薬剤師に相談してください。

他のお薬を一緒に飲む場合には、必ず医師または薬剤師に伝えてください

一緒に飲むお薬の種類※によっては、ラツーダの作用が強くあらわれたり、十分な効果が得られなくなったりすることがあります。
以前から飲んでいるお薬がある場合や、新しくお薬を飲む場合には、必ず医師または薬剤師に伝えてください。

※市販薬やサプリメントも含みます

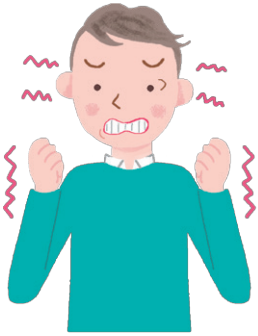
妊娠している人、妊娠している可能性のある人、授乳中の人は、医師に相談してください

ラツーダ服用中に注意することは？（つづき）

● うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります

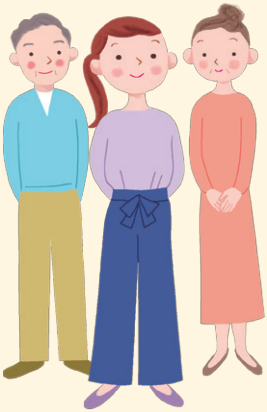
ラツーダを飲んでいる間、特に飲み始めや飲む量を変更したときに、不安感が強くなり、死にたいと思うなど、症状が悪くなることがあります。そんなふうに感じたり、思ったりしたときは、すぐに医師に相談してください。

また、不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、眠れない、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができないなどの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合も、医師に相談してください。



ご家族の方へ

死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気が悪くなる危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受けてください。
患者さんの状態の変化についてよく観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。



患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

ラツーダにはどんな副作用がありますか?

● **ラツーダを服用中に、次のような症状があらわれる場合があります。いつもと違う感じがするなど、気になる症状がありましたら、できるだけ早めに医師または薬剤師に相談してください**

足のムズムズ感や
そわそわした感じがする

胸がムカムカする
気持ち悪い

夜に眠れない、
または昼間に眠くなる

不安やあせりを感じたり、
興奮しやすくなる

手足がふるえる、筋肉がこわばる、
はやく動けなくなる　など

次のような症状があらわれた場合には、すぐに受診してください

- □ 高熱、汗をかく、ぼーっとする、体のこわばり、手足のふるえ、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくいなどの症状がみられる。［悪性症候群］
- □ 自分の意思とは関係なく、舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えずかむような口の動きなどがみられる。［遅発性ジスキネジア］
- □ 顔や手足の筋肉がぴくつく、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクとふるえるなどの症状がみられる。［痙攣］
- □ 以前よりものどが渇く、水などを多く飲む、尿が多く出る、尿の回数が増える、体がだるい、体重が減る、意識がうすれるなどの症状がみられる。［高血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡］
- □ 胸の痛み、突然の息切れ、発熱、下肢の痛みやむくみなどの症状がみられる。［肺塞栓症、深部静脈血栓症］
- □ 手足のこわばりやしびれ、脱力感、筋肉の痛み、赤褐色（赤みをおびた）の尿などの症状がみられる。［横紋筋融解症］
- □ 突然の高熱、寒気、のどの痛みなどの症状がみられる。［無顆粒球症、白血球減少症］

症状がよくなったら、ラツーダを飲まなくてもよい

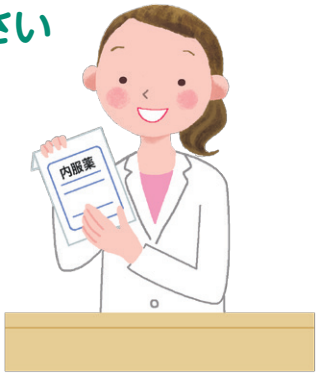
● 双極性障害におけるうつ症状は、よくなったと思っても、お薬の服用をやめると再発する可能性が高くなります

ラツーダは、脳の中の神経伝達物質（ドパミンやセロトニンなど）の受容体に作用してバランスを整えるお薬です。お薬を飲んでいると症状がよくなりますが、服用をやめてしまうと、再発したり、症状が悪化したりする可能性が高くなります。
症状がよくなってきても、自分の判断でお薬の量を減らしたり、飲むのをやめたりせず、必ず医師と相談してください。

ですか?

● お薬の数や量が多くて飲みづらい場合や、気になる症状がある場合には、医師や薬剤師に相談してください

お薬を飲むのがつらいと感じている場合は、医師や薬剤師に相談してください。



お薬を忘れずに飲む工夫をしてみましょう

お薬は、規則正しく服用することが大切です。お薬を忘れずに飲む工夫をしてみましょう。

例えば…

- 食事の前に、お薬の準備をしておきましょう。
- お薬を飲んだら、カレンダーに印をつけましょう。
- 規則正しい生活を心がけましょう。
  規則正しい生活は、お薬を忘れずに飲むためだけでなく、自立した生活を送るためにも重要です。

Information

住友ファーマ株式会社

〔2022年4月改訂〕LAT P-13564v04